

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州朝日発 CSA (Community Supported Agriculture) 推進事業
事業主体 (連絡先)	朝日てらすファーム 事務局 舟生 里 0263-99-2406 〒390-1104 東筑摩郡朝日村古見 192-イ
事業区分	(8) 産業振興・移住・定住促進、若者の UI ターン就業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,214,445 円 (うち支援金 : 1,771,000 円)

事業内容

- 朝日の酒「照らす」酒米栽培を通じた交流・体験**
村外から参加者を募り、田植・除草・稲刈り・脱穀・醸造など一連の作業にリポートして来村を促進。開催毎に講座を開き、有機、自然、朝日の農業、移住定住などの情報を提供し、朝日村への理解・好印象、興味を醸成。
- あさひマルシェの開催**
朝日村のこだわり農家の野菜をマルシェで3回販売。うち2回は、松本山雅のホームゲーム時に併催される軽トラ市に出店。1回は市街地の飲食店を借りて実施。特産の葉野菜、旬の野菜を生産者が対面販売。生産者と来店者の交流を深め、あわせて専任アドバイザーが村の農業・野菜の魅力、移住定住情報を案内した。



【R3.5月 田植

【目標・ねらい】

- ①村外者との交流 (ファン醸成)
- ②参加者協働による特産品開発
- ③来村者・来村回数の増幅
- ④移住、就農への動機アップ

※自己評価【B】

【理由】

- ・ 体験内容、酒への高い評価
- ・ 新しい人のつながりが生まれ朝日村ファンが増えた。
- ・ 都市農村交流プログラムの満足度を高めるポイントを理解した
- ・ コロナ禍で都市圏の参加者が獲得できず移住定住促進が不十分。

事業効果

- 酒米栽培
 - <村外在住者のリポート来村>
関東・松本・塩尻等から 10 組 24 名が参加。参加者は延人数で 64 人。食育、農業、朝日村への興味を醸成し、「朝日村ファン」を増加させた。
 - <参加者と生産者の交流>
共に酒米栽培に汗を流し、また生産者が講師になって朝日村の農業を分かり易く案内。農業への理解や関心を促し、継続的に続けるプログラムとして成立するためのポイントを確認できた。
- マルシェ
 - <朝日村ブランドの認知向上>
朝日村特産の葉野菜、多品種な旬の野菜を、生産者が案内しながら対面販売したことで朝日村産野菜のおいしさ、親近感、購入意欲が喚起できた。計 3 回実施し、平均 50 人以上を集客した。
 - <移住・農ある暮らしの呼びかけ>
朝日村の暮らしの魅力、農業に勤しむ心豊かなライフスタイルが提案できた。

今後の取り組み

- 酒米栽培体験で培ったノウハウを生かして畑作体験に展開
次年度は、酒米栽培から畑作体験にプログラム内容を発展させ、グリーンシーズンを通じて種蒔き・育成・収穫が体験できる新企画を計画している。参加者はリポート来村し、新鮮野菜を持ち帰り、品種によってはその場で味わえるなど趣向を凝らしたプログラムを目指す。
- マルシェの継続実施
次年度も、松本山雅の軽トラマルシェに参加予定。このほか夢街道 (NBS)・楽市楽座 (SBC) など松本市内で開催される交流イベントに参加し、新鮮野菜を生産者自身が売込み、朝日村と消費者の接点を増やすことにより、朝日村ブランドの浸透を図る。また、メンバーが新規就農希望者の相談に乗るなど移住・定住促進・産業振興にも関わる多岐にわたる活動を展開していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある